

【調査結果】

【調査結果】

調査項目	調査内容	調査結果
1	調査項目1	調査結果1
2	調査項目2	
3	調査項目3	
4	調査項目4	
5	調査項目5	
6	調査項目6	
7	調査項目7	
8	調査項目8	
9	調査項目9	
10	調査項目10	
11	調査項目11	調査結果2
12	調査項目12	
13	調査項目13	
14	調査項目14	
15	調査項目15	
16	調査項目16	
17	調査項目17	
18	調査項目18	
19	調査項目19	
20	調査項目20	

(3) アンケート調査結果

【調査結果】

調査項目	調査内容	調査結果
1	調査項目1	調査結果3
2	調査項目2	
3	調査項目3	
4	調査項目4	
5	調査項目5	
6	調査項目6	
7	調査項目7	
8	調査項目8	
9	調査項目9	
10	調査項目10	

【調査結果】

調査項目	調査内容	調査結果
1	調査項目1	調査結果4
2	調査項目2	
3	調査項目3	
4	調査項目4	
5	調査項目5	
6	調査項目6	
7	調査項目7	
8	調査項目8	
9	調査項目9	
10	調査項目10	

口蹄疫対策アンケート結果整理表(畜産農家等)

(回答数:329/発送数:1300)

【総括的事項】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	行政やJA等農業関係団体の危機管理意識が薄かった。	21
	今回の経験を踏まえて、早急に新たな法令や、防疫、補償の制度、マニュアルの整備を行うべき。	18
	県内の家畜の数に対して、家畜防疫員の数が少ない。	7
	行政(県・市町)が現場の状況・声を十分に聞かなかった。(把握していなかった。)	5
	今回の件で、行政のあり方を問うきっかけにして欲しい。	2
	マスコミの情報提供が遅い。(報道しない。)	2
	隣県との連携が悪かった。	1
	畜産農家が密集しすぎたことが、感染拡大の原因となった。	1
	現地対策本部における防疫措置(消毒体制・動線の分離等)が不十分だった。	1
	良かったと思う点	県内外の応援や行政(県、役場)、JAなどの関係機関等、様々な方面から一体的に(県民総力戦で)防疫対策へ取り組むことができた。
宮崎県内(主に児湯地域)に封じ込め、3ヶ月程度で終息させることができた。		49
徹底的な防疫対策(消毒)をとったことで、自分の家畜に感染しなかった。		17
一般の県民を含めて、口蹄疫(伝染病)に関する知識、怖さが理解された。		10
種牛問題など、知事が防疫対策、国との関係等で努力したことは評価できる。		7
マスコミによる情報提供で、状況をよく知ることができた。		6
知事のリーダーシップ、風評被害対策に感謝している。		4
農家への指導その他、一連の対策は概ね良かった。		1

【事前予防段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	口蹄疫に関する事前の農家への情報・指導が不十分だった。	33
	空港、港など水際対策が十分でなかった。(人・飼料等)	19
	農家自身が危機意識を持って防疫していなかった。	11
	埋却地は行政が予め準備すべき。	7
	地元との交流がなく内部が見えにくい企業経営の農場に対して、行政等の監視・指導が必要である。	5
	海外での発生の事例や対策を取り入れるべきだった。	3
	輸入飼料の消毒など検疫体制を強化するべき。	2
	早期に発見ができるように、獣医師のレベルアップが必要である。	2

【初動対応段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	どこの農場で発生しているかなど農家に必要な情報がなかった。農家にとっては不安。防疫上も危険な地域に近づかないように必要な情報である。	83
	初動段階での交通規制、消毒の対応が遅い、不十分であった。	69
	(全般的に)初動対応が遅れたことが感染拡大の原因。10年前の教訓が生かされていない。	63
	原因の究明、感染経路の究明が必要。(なぜ、宮崎で2回も発生しているのか?)	59
	国・県・市町の連携が悪かった。	19
	口蹄疫を早期に発見できなかったことが感染拡大の原因である。(獣医師の発見・県の検体送付)	18
	一般車両への消毒が不十分だった。	16
	大規模農場等の運営に問題がある。(感染拡大の原因ではないか)	16
	初動での殺処分・埋却が遅れたことが悪かった。	12
	初動段階での農家の消毒等の防疫対策が徹底されていない。	9
	万全の設備、体制の県の施設(家畜改良事業団、畜試川南支場)でなぜ発生したのか?厳しく究明するべきだ。	9
	当初、家畜保健衛生所に通報された案件で、検体を送付して検査しなかったのが問題である。	8

	国は対応が遅すぎ。県に丸投げだった。	6
	感染の確認に時間がかかりすぎる。県レベルで、感染の有無を検査できる施設を設けるべき。	6
	口蹄疫発生後に各農場でどのように消毒をすればよいのか、消毒方法に関する情報がなかった。農家への対応マニュアルを徹底するべき。	6
	県内部での連携不足(県と家畜保健衛生所)があった。	5
	発生農家の周辺農場への立ち入り調査(疫学調査)等が不十分だった。	3
	初動段階での県外に向けた情報発信が少なく、状況がわからなかった。	2
	防疫措置に従事した職員の消毒等の措置が不十分だった。	1
	検査結果の判定に時間を要したことにより、初動対応が遅れたことが良くなかった。	1
	殺処分した家畜の搬送の際に、ウイルスが拡散した。	1
良かったと思う点	飛び火した都城市、えびの市、宮崎市、木城町においては、迅速な対応により早期に封じ込められた。	17
	消毒剤等の資材が無料で配布されたことは良かった。	10
	初動体制は間違っていなかった。	7
	現地対策本部の防疫体制は早かった。	1
	発生農家の名前を出さなかったのは、良かった。	1

【まん延段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	消毒ポイントの設置が少なかった。もっと、徹底した消毒をすべき。	32
	感染が確認されてから殺処分を行うまでに時間がかかり、ウイルスが増殖したことが感染拡大の原因ではないか。	22
	国がワクチン接種を決めた後の対応が余りに早急で十分な説明がなかった。	18
	埋却地の確保に時間を要したこと。	16
	殺処分・埋却は、段取りや職員の連携が悪く、作業が遅い。	15
	ワクチン接種の判断が遅かった。	14
	ワクチンを接種したことは良くなかった。(殺処分すべきではなかった。良かったのか疑問)	12
	県の種雄牛を殺処分しなかったのは不相当である。	11
	口蹄疫に関する情報が少なかった。様々な噂やデマなど不正確な情報が出回り不安だった。	10
	地元獣医師が防疫対策に活用されるのが遅かった。(早期に協力要請するべきだった。)	7
	ワクチン接種のエリアが広すぎる。	6
	ワクチンを接種してから、殺処分までに時間を要した。	6
	殺処分を行う際に十分な連絡・説明がなかった。	4
	殺処分後の農場の防疫措置で、ワクチン農家と患畜農家で対応の不平等があった。	4
	民間種雄牛は早期に殺処分すべきだった。	4
	堆肥処理に関する指導を早い時期に行うべきだった。	4
	殺処分を行う獣医師が十分な技術を持っていなかった。	3
	防疫措置等を担当した職員の作業後の消毒等が不十分だった。	3
	非常事態宣言は、もっと早い時期に出すべき。	3
	自衛隊の協力がありがたかった。	3
	農場やその周辺で宅配業者などの往来があった。	3
	発生農家で、近所への頻繁な外出や、旅行等をしている人がいた。	3
	予防的殺処分の際には、感染の有無の検査をしてほしい。	2
	口蹄疫発生時には、もっと外出規制が必要。生活支援と合わせて。	2
	まん延の最中、マスコミが取材で回るなど、行き過ぎた取材があった。	2
	非常事態宣言は、多方面に損害を与えた。	1
口蹄疫以外の病気に対応してもらえない獣医師がいなかった。	1	
農家以外が所有する偶蹄類の取扱い・対応をしっかりとして欲しい。	1	
良かったと思う点	埋却地の確保に、行政が協力してくれた。(共同埋却の確保含む)	19
	ワクチン接種する、という判断は良かった。	11
	種畜(種牛ほか)は、再建のために残して欲しい。	6
	感染農家が、他の農場の殺処分等に協力したことによって処理速度が速められた。	5
	ワクチン接種の家畜の殺処分を、農場外でやってもらえた。	5

ワクチン接種畜の殺処分等は早く終了できた。	2
酢等を活用した家畜や農家等の消毒、外出の規制は効果があった。	2

【その他】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	補償金の支払いが遅い。	31
	補償金に不平等があるのは不適當。(発生農家とワクチン農家)	22
	補償金に課税するべきではない。	11
	被害者への心と体のケアが十分でない。	8
	補償金が十分でない。	7
	再開のための埋却地を確保してほしい。	3
	再開したいが、口蹄疫の影響でセリの価格が高騰しており、導入しづらい。	2
	牛・豚の生産者以外に義援金がもらえなかった。	2
	家畜の導入時期は、統一すべきである。	2
	補償金が十分でない。(山羊)	1
	多額の補償金を受け取っているなどの噂に苦しめられている。	1
	再開支援の資金貸付の返済期間が短い。	1
	農家以外への支援(被雇用者、関連事業者など)が十分では無い。	1
	マスコミからの報道が行政からの情報に偏り、地元の話を取り上げなかった。	1
	疫学調査チームの中に、農家をメンバーに入れるべき。	1
	バイオテロを想定した監視カメラの設置が必要。(道路や農家)	1
	ウイルスの人への感染の有無を確認すべき。	1
良かったと思う点	全国から暖かい支援をいただいたこと。(メッセージ、義援金など)	90
	家畜の補償金は良かった。(十分だった)	12
	被害者への心と体のケアはありがたい。	3

口蹄疫対策アンケート結果整理表(獣医師)

(回答数82/発送数360)

【総括的事項】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	行政、農業関係団体での危機意識が低かった。(油断があった。)	7
	現状の制度(家伝法、指針等)、マニュアル等の不備があった。	3
	県内の家畜の飼養規模と比較して、県内の家畜防疫員の人数が少ない。	3
	口蹄疫対策は、政府に国家防疫という意識がなかった。	2
	地域の枠ごとの対応ではなく、強制的に広域的な防疫措置を行うべき。	2
	終息宣言は、観察牛による確認が終了した後に出すべき。	1
	畜産の再建に向けて、国・県が更にリーダーシップをとるべき。	1
良かったと思う点	宮崎県内(主に児湯地域)に封じ込め、3ヶ月程度で終息できたことが良かった。	19
	獣医師、自衛隊、警察等県外からの支援を含め、総力戦で防疫対策に対応できたことが良かった。	17
	農家、一般を含め、畜産業や家畜伝染病の防疫に関する理解が広がったこと。	7
	知事の口蹄疫に対する姿勢、国との折衝などは良かった。	6
	迅速に殺処分・埋却(防疫措置)を行えば、感染が拡大しないことが分かった。	1
	獣医師として、今後同様の伝染病が発生した際には、要請があれば協力をしたい。	1

【事前予防段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	事前に、農家に対して口蹄疫や防疫に関する情報について周知、指導すべき。	13
	口蹄疫防疫マニュアルが現場に即していなかった。	4
	日常での畜産農家の防疫意識が低かった。(特に牛の飼養農家)	4
	感染が起こった場合のシュミレーションや研修を行っておくべき。	3
	空港など、水際での防疫対策を強化すべき。	3
	新たな防疫マニュアルを作成し、農家に徹底を図るべき。	2
	韓国での発生の際に、気にしていなかった。	1
	埋却地は、行政が事前に確保しておくべき。	1
	埋却地は、農家が事前に準備しておくべき。	1
	10年前に、今後の課題として処分用埋却地の確保は最大の課題だったはず。	1
	事前に地元獣医師に、口蹄疫発生時の対応チームを指定し対応させるべき。	1
良かったと思う点	県・獣医師会等の先導で、農家への防疫意識の向上のための取り組みを行うべき。	1
	宮崎県口蹄疫防疫マニュアルが整備されていたこと。	1

【初動対応段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	どこの農場で発生しているかなど農家に必要な情報がなかった。農家にとっては不安。防疫上も危険な地域に近づかないように必要な情報である。	20
	(全般的に)初動対応が遅れたことが感染拡大の原因。10年前の教訓が生かされていない。	14
	感染確認後の道路の封鎖、人・物の移動規制等が遅かった。(徹底されていなかった。)	14
	初例の検体の送付による早期発見があれば、被害を少なくできた。	11
	感染源・感染ルートの特定、可能性のある要因などを明らかにするべき。	9
	国の疫学チームの調査が遅すぎた。どのような調査を行ったか内容に不満がある。	8
	市町、県、国の連携が悪かった。	7
	獣医師の通報案件・疑わしい症例については、すべて迅速に病性の鑑定を行うべき。	6
	初動での消毒体制が不足していた。	6
	国が全面に出て初動体制をとるべき。国の支援が遅れ、対策が後手になった。	5

	口蹄疫の発生状況等に関する獣医師への情報提供がなかった。(遅かった)	5
	行政と関係団体との連携が悪かった。	4
	容易に口蹄疫の検査が可能となるよう、県内(九州内)に、検査ができる施設を設置すべき。	3
	情報の外部への提供については、有効な方法を工夫すべき。(口蹄疫に関する正しい情報の提供)	3
	対策本部の設置等、体制の整備はよかった。	2
	消毒剤等が配布されたが、農家への防疫の具体的指導が不足していた。	2
	大規模農場による感染拡大の可能性について、はっきりしていない。厳しく調査すべき。	2
	初動で家畜防疫員のみで対応しようとし、各団体との連携が不足していた。	1
	県の対策本部や家畜保健衛生所等において消毒施設が不備だった。	1
	初期の殺処分で、必要な資材等が不足していた。	1
	初発の地域が家畜の密集地帯であることが蔓延の原因だった。	1
良かったと思う点	都城市等飛び火した地域で感染拡大しなかったことは良かった。	11
	初期の殺処分等は、迅速に行う事ができた。	4
	前例のない事態で、今回以上の対策は難しかったと思う。	2

【まん延段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	殺処分・埋却に時間がかかり過ぎた。(現場の連携、準備不足等による)	12
	消毒のポイントや、設置機・資材が不十分。一般車両を含め、車両の消毒の徹底ができなかった。	12
	埋設地の確保がうまくいかなかった。(公有地の提供など)	6
	ワクチンの接種を、もっと早く行うべきだった。	5
	殺処分等への地元獣医師の活用が遅かった。	5
	防疫対策に対応した職員の、消毒などの対策(バイオセキュリティ)が不十分だった。	5
	ワクチンの接種範囲については、理論的根拠を示すべき。もっと狭い範囲でよいのではないか？	4
	地元獣医師として、現場での作業への協力ができず、残念だった。	3
	県外からの応援獣医師の技術や配置などでの不備があった。	3
	悪意のある噂やデマが流布され、現地での混乱があった。	3
	対策として打ち出された早期出荷は、実現可能性がなく農家を混乱させた。	3
	防疫対策への人員確保については、もっと外に協力を求めるべき。	2
	現地対策本部に、地元詳しい獣医師を入れるべきではないか。	2
	防疫措置の中で、堆肥の処理の考え方を途中で変更したことはよくなかった。	2
	現場において、女性獣医師への配慮(更衣室など)がなかった。	1
	種雄牛の移動等の対応が遅すぎる。	1
対策本部が複数あり、混乱があった。	1	
良かったと思う点	ワクチン接種の判断そのものは良かった。	9
	対応が軌道に乗った後は、徹底した防疫(殺処分・消毒等)ができた。	6
	県の財産である種雄牛を残すことができたことは良かった。	2
	ワクチン接種の判断後、迅速に実施されたことは良かった。	1

【その他】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	疑似患畜農家とワクチン農家の補償の不公平感は、今後悪影響を与える。	4
	検査結果(抗体値など)を開示して欲しい。	1
	県獣医師会からの情報が提供されなかったことが不満だった。	1
	ワクチン接種や殺処分に従事した獣医師に手当が支給されていない。	1
良かったと思う点	鳥や小動物によるウイルスの伝搬に関する検証が必要。	1
	全国の皆さんからの善意(義援金、メッセージ、ボランティア)はありがたいと思った。	22
	家畜への補償は農家から不満のない額だったと思われる。	1
	発生農家に対する「心と体のケア」は良かった。	1

口蹄疫対策アンケート結果整理表(関係団体等)

(回答数:45/発送数:85)

【総括的事項】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	JA系統と商系など、異なる団体間で情報等の壁があった。今回協力体制がとれたことにより、今後に資する収穫となった。	4
	口蹄疫の対応は県畜産課のみではなく、全庁横断的なしっかりとした危機管理体制の構築が必要である。	2
	口蹄疫に限らず、今回のような状況、大災害等の状況においては、一定の権限を有し、説明能力の高い報道窓口担当者の設置が必要である。	2
	危機管理体制と対応マニュアルの見直しを行うべきである。	2
	今回、食酢など様々な物が消毒用に使用されたが、これらについて効果の検証を行う必要がある。	1
	伝染病であるから、国がしっかりと指針を示し、対応する必要がある。	1
	埋却地を事前に確保しておけるような法・施策が必要である。	1
	県の家畜防疫員の数が少ない。	1
	現場のマスコミ取材に対し、一定の制限を要請する場合は、様々な局面での取材範囲、方法等について、説明をするべき。	1
	良かったと思う点	県内外からの協力が得られ、行政や関係機関一体となって防疫対策に取り組めたこと。
宮崎県内(主に児湯地域)に封じ込め、3ヶ月程度で終息できたことが良かった。		12
知事の対応が早かった。		3
畜産の防疫の重要性が認知され、将来に向けて危機感を保有できたこと。		3
マスコミを通じて様々な情報が農家等に伝わった。		2
非常事態宣言を受けて、県民の協力が得られたこと。		2
口蹄疫に対する県民の理解や経験が得られ、県民が一つになって防疫等の対策にあたることができた。		2
思い切った補償を打ち出すことによって、農家の協力を得ることができたこと。		1
マニュアル通りでは防げないことなど、口蹄疫に関する認識や知識が得られたことは、今後に生かせる。		1

【事前予防段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	周辺国での発生情報があつたにもかかわらず、警戒を怠り危機意識が薄かった。	11
	畜産農家等の口蹄疫に関する認識不足、防疫意識が甘かった。	10
	今回の件を踏まえた法律、条例等制度の見直しを行うべきである。(家畜の補償、埋却地の確保等)	8
	平常時に消毒等防疫に関する適正な指導と、消毒薬などの資材の確保が必要である。	5
	埋却地が予め確保できていなかったのが、感染拡大を防げなかった原因である。	5
	空港、港湾等における水際での消毒等の防疫が不十分であった。	2
	水際対策に関して、輸入される物資に比べ、人に対する検疫体制が不十分だと思われる。	2
	県内の畜産農家の配置状況の把握ができていなかった。(結果、通行規制や消毒体制の整備、農家支援に資する。)	2
	大規模畜産農家(企業経営)の指導強化と、地域行政との連携が必要である。	2
	農場が発生状況を隠している状況を想定し、各農家から県への通報体制を整備すべき。	2
	諸外国での口蹄疫の症状等の情報が、獣医師に伝わっていなかった。	1
	口蹄疫が今後も発生することを前提に初動防疫の体制を準備すべき。	1
	事前に想定されていた国の対策は、最新の口蹄疫の研究に基づく物ではなかった。	1
	県の種雄牛を1カ所で集中管理していたのは、危機管理上仇となった。	1
	家畜保健衛生所のレベルアップを図るべき。	1

【初動対応段階】

	内 容	意見数
	国・県・市町村・関係機関の連携が不十分だった。	24

悪かったと思う点	感染確認後は、早期の交通遮断・規制、消毒ポイントでの全車両の消毒が必要である。	18	
	感染源、感染ルートの解明が必要である。(防疫上の必要性、農家の不安、「家畜伝染病に対し、リスクな県」というイメージ。)	16	
	どこの農場で発生しているかなど農家に必要な情報がなかった。農家にとっては不安。防疫上も危険な地域に近づかないように必要な情報である。	14	
	初動での対応の遅れが、感染拡大の原因である。	10	
	初期段階での消毒ポイントの設置箇所数が不十分だった。	9	
	獣医師の通報に対して、動物衛生研究所に検体を送付するのが遅かった。(発見の遅れ)	7	
	口蹄疫に関する情報が、マスコミが先行し関係機関から提供されるのが遅かった。	5	
	初動での作業の段取りが悪く、機材・資材の手配が遅れによる長い待機時間が出るなど、非効率であった。	4	
	初動での政府の対応が遅すぎたことが感染拡大の原因である。	4	
	飼料関係、資材輸送関係に早期に協力要請を行うべきであった。	2	
	県内部の指揮命令系統が不明確だった。	1	
	感染疑いが発生してから、初動に移るまでの判断が遅い。	1	
	第一例の確認後は、迅速に周辺家畜の抗体検査を行うべき。	1	
	口蹄疫発生後は、少しでも疑わしい事例があれば、すべて口蹄疫の検査を行うべき。	1	
	疫学調査は重要であり、今後強化すべき。	1	
	消毒薬の確保に苦労した。	1	
	口蹄疫発生後の農場の消毒のやり方など、正確な情報が伝わっていなかった。農家への指導が徹底していなかった。	1	
	県からの派遣要請があったが、口蹄疫に対する正確な知識がなかったため、初動が遅れた。	1	
	良かったと思う点	えびの市、都城市、日向市など飛び火的に感染があった事例については、感染確認後、迅速に対応がなされ、感染が最小限度に抑えられたこと。	10
		早期に自衛隊・警察の応援を要請し、協力が得られたことは、良かった。	2
口蹄疫感染の確認後早期に県の全庁的な対策本部が設置されたのは、良かった。		1	

【まん延段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	消毒ポイントでの消毒が徹底していなかった。(ポイントによって温度差があった。)	8
	殺処分・埋却措置の現場作業が効率的に行われていなかった。時間を要した。	8
	一般車両の消毒を徹底すべきだった。	6
	ワクチン接種のタイミングが遅かった。(今後の検討課題である。)	6
	消毒ポイントの設置場所が悪かった。(農場周辺、効率性、安全性など)	5
	地元(NOSAI等)獣医師をもっと活用すべきだった。	5
	防疫作業にあたる人員のバイオセキュリティ上の配慮や、危機意識が低い職員がいた。	4
	農家に埋却地の確保を課して時間を要したことにより、疑似患者が放置されたことが感染の拡大につながった。	3
	感染が拡大している中で、畜産関係車両等が農場を回ることを止められなかった。	3
	ワクチン接種に対する事前の周知等が不十分であった。	3
	口蹄疫の感染拡大のスピードに消毒ポイントの設置が追いつかなかった。	2
	家畜の埋却作業の中で感染拡大に対する配慮が足りなかったのではないかと。(埋却場所、輸送ルートなど)	2
	県は、防疫対策で手一杯でマスコミ向けの情報提供、取材対応が二次になった。(対応職員の不在)	2
	防疫作業で余剰人員が出ているにもかかわらず、応援の追加要請が出るなど、現場との連携、調整がうまくゆかない部分があった。	1
	防疫作業は対処療法的措置が中心で、大局的な見地で先を見た対応の検討が遅れた。	1
	非常事態宣言は、様々な行事等が自粛される一方、大型ショッピングセンターに人が集中し、実質的に機能したかどうか疑問がある。	1
	県指定以外の消毒ポイント(特に県境)に対する支援が更に必要だった。	1

	消毒ポイントに自治体職員が常駐しないため、責任の所在が不明確な箇所があった。	1
	消毒ポイントでの、消毒拒否など非協力的な車が散見されたので、マスコミを通じた広報啓発が必要である。	1
	民間の種雄牛の取り扱いについては、関係機関との協議を行うべき。	1
	県の種雄牛の避難の判断が遅かった。	1
	防疫措置の中で、堆肥の処理の考え方を途中で変更したことはよくなかった。	1
	家畜保健所など県の窓口で、担当が分かれているために、確認に長い時間を要することがあった。	1
	マスコミの報道は、宮崎への訪問、宮崎の産品を控えるような風評を生む内容であった。	1
	発生地域から離れた地域においては、畜産関係者の業務(受精、診療等)の自粛を早めに解除すべき。	1
	消毒ポイントは、人員をかけるよりも、機械化すべきと考える。	1
	県から、関係の各団体への依頼・要請の中で、期間的に相当無理のある物があつた。	1
良かったと思う点	口蹄疫に関する情報を、県や団体通して共有することができ、十分な状況把握ができた。	6
	ワクチン接種の判断はよかった。	2
	5頭の県有種雄牛を残すことができたことは良かった。	2
	各地域に消毒ポイントが設置できてよかった。	1
	5月中旬以降の殺処分・埋却措置はスムーズに行われた。	1
	防疫作業は、作業を重ねるごとに逐次効率的に進化させることができた。	1
	防疫活動への派遣人員に対する活動基盤(宿泊等)は十分提供された。	1

【その他】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	疑似患畜農家とワクチン接種農家の補償に不平等があるのは不適当である。	3
	風評被害に対する対策が不十分であった。(人への影響)	2
	農業関連の企業にも十分な支援が必要だと考える。	2
	補償の支払いの遅れ等があった。	1
	検証委員会の構成メンバーが不適切である。(獣医師や畜産農家が不在)	1
	口蹄疫の対策を検討する上で、食肉処理業者等の活用も検討してはどうか。	1
	防疫対策に従事した獣医師には手当を支給するべき。	1
	家畜の補償額のレベルは、満足なものであった。	1
良かったと思う点	全国からの励ましのメッセージ、義援金の提供などの応援が得られたこと。	13
	発生農家等に対する家畜の補償は十分だった。	2
	口蹄疫緊急対策貸付や雇用調整助成金等、各種支援策が充実していた。(効果があった)	2
	口蹄疫発生農家以外の農家への支援は、大変ありがたい。	1
	発生農家以外の農家への支援策が不十分だった。	1
	都城市では、職員間の情報共有化がなされていた。	1
	畜産課職員の一人が、専門的内容を明快に説明し、マスコミの理解が深められた。	1
中小企業等への支援では、融資よりも売り上げ減少対策(プレミアム商品券の発行など)を望む声大きい。	1	

口蹄疫対策アンケート結果整理表(県内市町村)

(回答数: 6/発送数:26)

【総括】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	行政として口蹄疫への対応に関して、気の緩みがあった。	1
	畜産農家には、危機意識に対する温度差があり、防疫に対する意識が低かった。埋却地も行政が何とかしてくれると思っていた。	1
	農家にとって、口蹄疫発生を報告しやすくする制度・工夫が必要である。	1
	「消毒」については、消毒薬の効果や使用方法など効果を十分に検証すべき。根拠なく漫然とした消毒にお金をつぎ込むことに疑問がある。	1
良かったと思う点	県内外からの協力が得られ、行政や関係機関一体となって防疫対策に取り組めたこと。	1
	宮崎県内(主に児湯地域)に封じ込め、3ヶ月程度で終息できたことが良かった。	1
	今回の犠牲を教訓に、様々な関係法令、マニュアル等が現実に沿った形で整備されていくこと。	1
	農家の自衛・防疫意識を高めることができた。	1
	家畜伝染病に関する知識が、一般市民にも認識された。	1
	本県畜産の重要性について、県民、国民に理解がなされた。	1

【事前予防段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	農場での消毒や来訪者の踏み込み消毒槽の未設置など、農家の口蹄疫や防疫に対する知識が不十分だった。	2
	空港、港湾等での外国からの水際防疫が十分ではない。強化すべき。	2
	マニュアルは、概要だけではなく、現実に即した内容のものが必要である。	1
	県から農家、獣医師に対する、口蹄疫の早期発見や防疫措置に関する日頃からの訓練が必要である。	1
	自治体内で埋却地の調査を行ったが、事前の確保はかなり困難である。根本的な解決ができるよう、道筋を立てて欲しい。	1
	殺処分した家畜を埋却した場合の悪臭等の悪いイメージが埋却地確保を更に遅らせる。事前に埋却以外の方法も検討すべき。	1
良かったと思う点	マニュアルの整備により、職員は十分ではないものの事前に防疫作業のイメージをつかんでいた。	1

【初動対応段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	初動段階での消毒ポイントの設置や道路封鎖・規制などの防疫体制が不十分であった。	2
	原因の究明、感染経路の究明が必要。	1
	発生当初、県から出される情報が非常に少なかった。自治体、農家を含めた情報共有化を行うべき。	1
	発生市町以外の近隣の自治体への情報提供が遅かった。	1
	口蹄疫発生後、対策本部は農林振興局に設置して、関係各市町村との情報連絡体制を作るべきである。	1
	感染が確認された初期に、口蹄疫が発生した地域で、マスコミの強引な取材が行われた。	1
	防疫措置や殺処分した家畜への補償に対する、政府の予算措置が不明確であったために対応が遅れがあった。	1
	口蹄疫を早期に判断するための簡易キットの開発を行うべき。	1
	警察や自衛隊に対して、より早い協力対応が得られるようにすべき。(県外は早かった。)	1
良かったと思う点	市民全体で防疫に取り組み、発生はしたものの、1例で終息したことは良かった。(都城市、えびの市)	2

【まん延段階】

	内 容	意見数
	マスコミの情報や、様々な噂話、デマ等により農家の中で混乱が生じた。農家への情報伝達が難しかった。	2
	非常事態宣言が発せられているにもかかわらず、消毒ポイントの設置の許可に、時間を要した。(県土木、警察)	1

悪かったと思う点	防疫措置の後半では、市町に殺処分・埋却を依頼されることがあったが、県のマニュアルでも市町村の役割は十分記載されておらず、困惑した。	1
	消毒ポイントの設置場所について、県と市町村の設置場所の連携がうまくいかなかった。(県のポイントが流動的に変更)	1
	殺処分の現場で、指揮命令系統が統一されていなかった。	1
	事前に先遣隊の確認を行わず、当日の準備が遅れて作業の待ち時間が発生した。	1
	目視検査に来られた獣医師には、口蹄疫や防護服等についての知識がほとんどない方もいた。	1
	防疫措置に対応した職員の労働が、長時間に及んだ。	1
	種雄牛を5頭しか守れなかった。	1
	政府の現地対策本部の設置が遅い。(100例を超えた以降)	1
	ワクチン接種の判断時期が遅かった。	1
	殺処分への、獣医師、補助員等の割り振りや、資材等の手配が円滑に行われなかった。	1
	地元獣医師の活用が遅れた。	1
	県は、発生地域の首長に限定した会議を行っていたが、それ以外の地域の意見は反映されず、評価すらできない。	1
	良かったと思う点	発生後、家保が周囲1kmの農家に異常確認と消毒指導に巡回したことは、農家の不安の除去と消毒の徹底に役立った。(都城市)
自衛隊・建設業等との連携により、比較的迅速に殺処分・埋却を行うことができた。(都城市)		1
市町の合併の効果で、より大量な人的・物的な投入が可能となった。(都城市)		1
支援物資として希望する物資が提供されたこと。		1
	小売業や宿泊業などが、積極的に消毒マットの設置などの防疫措置に協力してくれた。	1

【その他】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	与党幹部の現地調査が遅かった。	1
	移動制限区域の農家(畜産業以外)に対する対応・補償が考えられていない。	1
良かったと思う点	全国からの支援が、農家等の心の支えとなり復興の後押しとなっている。	1
	殺処分された家畜に対する補償の額が十分だった。	1

口蹄疫対策アンケート結果整理表(都府県)

(回答数:40/発送数:46)

【総括】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	現在の家伝法等の制度では、十分な防疫対策ができなかったことが明らかになった。	2
	宮崎県で行われた防疫に関する情報が、終息後に他県へ提供されていない。(9月末時点)	1
	国の口蹄疫対策検証委員会の改善方針に応じた改善を実施するべき。	1
	埋却地の確保など、畜産経営に関する規制事項を条例等で設けるべき。	1
	国との連携をより円滑にするべき。	1
	家畜の数に見合った、家畜防疫員の数を確保するべき。	1
良かったと思う点	大規模な感染の事態となったが、宮崎県内で封じ込めができたこと。	19
	国、県、市町、関係団体等が速やかに連携し一体となって防疫対策が実施された。	14
	県や関係市町のホームページでの情報提供は、非常にわかりやすかった。(県HPの迅速な更新、えびの市の時系列の表示など)	8
	県のみならず、県内市町村や関係団体などが独自の防疫対策を行った。	5
	全国からの多くの防疫作業員を整理して防疫対策が実施できたこと。	5
	県からのプレスリリースが逐次FAXされ、的確な広報や農家の指導に役立った。	1
	マスコミが冷静に対応し、全国に情報発信したことにより、全国からの関心・支援が得られた。	1
	今回のような伝染病の発生時に、国が現場作業に協力することが確認されたことは良かった。	1

【事前予防段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	平常時から埋却地の確保に努めるべき。	4
	初期症状の写真や診断の記録などの病性や、防疫作業の内容について、各都道府県に対してもっと情報提供されるべきである。(海外、宮崎県の例)	3
	飼養台帳の整備など、畜産農家に関する情報を事前に十分把握しておくべき。	3
	宮崎空港等での防疫措置(消毒マットの設置)が十分でなかった。	2
	防疫方針について、事前にもっと十分国と調整するべきであった。	1
	畜産農家に対して、消毒等の防疫意識を高める指導が必要である。	1
	埋却以外の処分方法(焼却等)を併用するなどの方法を検討しておくべき。	1

【初動対応段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	マスコミやHP掲載の情報しか入手できなかった。各都道府県の衛生担当者には、より詳細な情報を提供すべきである。	7
	防疫作業を行った後にシャワーなどが使用できない、ホテル・現地本部・作業現場で同じバスを使用、動線が分離していないなど、感染拡大を防ぐ上で不十分な部分があった。	6
	感染原因、進入ルートの解明等を行うべき	3
	より早期に自衛隊を活用し、迅速、統制のとれた対応をとる必要がある。	3
	発生当初、感染例発生情報が遅かった。動物衛生検査所への検体送付の時点で情報提供して欲しい。	2
	早期発見・通報の遅れ、埋却地の選定の遅れにより未曾有の事態となったこと。	2
	初動防疫を迅速に行うため、診断キット等を各家畜保健衛生所に配備するなど、診断体制を整備すべき。	2
	獣医からの病性鑑定依頼に適切に対応せず見逃したことはよくない。	2
	初動段階で資材不足等の対応の遅れがあった。普段からの必要な資材の備蓄が必要である。	2
	通行遮断・規制については、更に強化すべき。	2
	疫学調査は、時間の経過とともに困難になるため、事前に調査方法等を検討しておくべき。	2

	発生当初の消毒ポイントの設置数が少なく、消毒が徹底されていなかった。	2
	悪性伝染病の動衛研への確定診断依頼時に、九州各県に連絡する取り決めは、影響が大きいので、きちんと守って欲しい。	1
	移動制限、搬出制限区域のエリア設定や消毒ポイントの設置は、感染の拡大状況を踏まえて拡大、増設するべきだった。	1
	県全体で防疫体制を実施し終息に近づいた時期に、都城市等で発生したのについては特に感染拡大の原因究明が必要である。	1
	感染が確認された際には、直ちに県内の家畜市場の競りを中止すべき。(小林で4/21まで開催)	1
	初期発生農場への疫学調査が遅れた。(一部未実施?)	1
	県外に対して派遣要請される家畜防疫員に対して、準備等の連絡が事前になかった。	1
	農家ででの消毒に関して、酸性・アルカリ性のの混合など混乱があった。	1
良かったと思う点	都城市えびの市等での対応は、体制が整っており、対応も早かった。	8
	早い段階で自衛隊に災害出動の応援要請がなされた。	1
	感染拡大を防ぐためには、初動防疫が重要であることを確認することができた。	1

【まん延段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	県外からの応援部隊で作業する上で、事前に農場の状況や作業内容等に関する情報や打ち合わせがほとんどなかった。十分な打ち合わせ、情報提供を行うべき。	16
	殺処分現場で、適切なリーダーの不在による指揮命令系統の混乱があった。リーダーとなれる家畜防疫員等を活用し、より機能的な作業を行うべき。	16
	県種雄牛を特例により殺処分しなかったことは、県内の民間種雄牛の処分の遅れをはじめ、悪い前例となって今後の防疫上の障害となることが懸念される大きな問題である。	10
	女性の防疫作業員等に対して配慮があるべきだと思う。(トイレ・更衣室・食事場所など)	7
	対策本部から現地に無理な要求がなされるなど、意識の差が大きかった。組織内部でのより密な連携が必要である。	4
	様々な派遣者がチームを組むため、チーム内の連携が不十分だった。(チームでの派遣やブロック単位でのチーム構成などが効率的。)	3
	ワクチン接種についての作業(接種状況、処分状況など)の実施状況の詳細な情報がなかった。	3
	防疫作業に従事する職員の一部に、防疫意識が低い職員がいた。(防疫服の着用、私物の持ち込みなど)	3
	埋却地の確保ができず、迅速な殺処分・埋却ができなかったのが、蔓延の原因である。	2
	天候等による作業の中止や、防疫作業の進捗状況など、作業を行う家畜防疫員等への必要な連絡や、様々な情報提供が不十分であった。	2
	感染農場での清浄区域、汚染区域が明確化されていなかった。	2
	作業員の人員配置が適正でなかった。(農業間の作業量の差)	2
	ワクチン接種の判断が遅かった。国にもっと早く申し入れるべき。	2
	全車両の消毒や車両の全面的消毒が徹底されていなかった。	2
	県の畜産関係施設(畜産試験場、家畜改良事業団)に感染を許すべきではなかった。	2
	国が現地对策本部を設けたことにより、国、県のどちらが意志決定するのか役割分担が不明確だった。	1
	県外からの応援で、疫学調査チームに配属された場合の業務範囲が限定的であった。限定外の業務も分担されるべきである。	1
	汚染物品(堆肥)の処理が終了しない段階で移動制限区域等の解除を行った。	1
	作業中の事故発生状況については、作業員へ情報提供するべき。	1
	農場内は、殺処分を行っている近くで運搬用の重機等が稼働しており、作業中に危険性を感じた。	1
	畜産農家へのメンタル面での対応が遅かった。	1
	ワクチン接種の際、農家への説明不足、資材不足等が生じたほか、農家への説明、説得に宮崎県職員が不在で、県外獣医師が行った。	1
	防疫措置に従事した作業員が、口蹄疫を外部に持ち出す危険性などウイルス・コントロールについて十分な説明が必要である。	1
	ワクチン接種牛の殺処分・埋却措置は、消毒や衛生管理などを疑似患者と同様に扱うべき。	1
	豚の電殺機による殺処分は、獣医師以外の人員での対応も検討すべき。	1

	家畜の月齢に応じた殺処分方法がとられず、非効率な場面があった。	1
	作業チーム内の役割分担を明確にすべき。(司令塔のリーダー、殺処分の獣医師等それぞれに専念)	1
	殺処分を急ぐあまり、保定や薬液注入のスペースが十分設けられず、作業に危険を伴うケースがあった。	1
	殺処分後の汚染物品の処分や清掃などは、民間への委託を活用すべきではないか。	1
	防疫対応の協力のため宮崎を訪問した際に、空港などの公共的な場所での口蹄疫に関する情報が少なかった。	1
良かったと思う点	派遣要員の受け入れのために、ホテルの業務別の手配、移動手段の確保、健康チェックなどが良かった。	8
	特に、後半時期に、県内で多数の消毒ポイントを設置、一般車も含めて消毒が徹底されたこと。	6
	交通遮断や公共施設の閉鎖等の県民生活への制限に対して、県民の協力体制が確立されていた。	5
	防疫措置に対応した作業のリーダー(家畜防疫員、サブリーダーなど)が、現場が混乱する中で迅速かつ確実に対応していた。	3
	現地支援本部からの現場への支援体制はよかった。(資材、対応等)	3
	ワクチン接種の判断が行われたことは良かった。	3
	途中から、病性の判断に画像診断を行うなど迅速な判断、処分が行われた。	2
	作業員のバス移動に伴う消毒(車内、乗車時など)は徹底されていた。	2
	県の種雄牛5頭を守ることができた。	1
	殺処分やワクチン接種等について、システム化され防疫体制の整備が速やかに行われた。	1
	感染農場での清浄区域、汚染区域が明確化され、作業員への消毒も徹底されていた。	1
	制限区域外においても家畜市場の開催自粛、県外出荷の自粛措置を執られたこと。	1
	マスクが現場に近づくことについて、きちんと規制がされていたことは良かった。	1
	殺処分において、地元の民間獣医師が活用され、現場をリードしていた。	1

【その他】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	派遣要請の際に、具体的な内容の提示が必要である。当初の要請内容と異なる作業だった。	3
	防疫対策において、科学的根拠に基づいた客観性より、政治的配慮が優先されたケースが多かったのではないか。	1
	家畜防疫員以外の派遣要請については、根拠や経費負担等のルールが不明確である。地方自治法に基づく派遣要請が必要だと考える。	1
	宮崎県以外で派遣要請があった県においては、自県の守りを優先し、必ずしも十分な人員派遣に応じていなかった。	1
良かったと思う点	検証委員会を設置し、外部の意見を検証を行っていることは評価できる。	2
	防疫作業の現場から再利用可能な資材を回収する体制がとられていたことは良かった。	1

口蹄疫対策アンケート結果整理表(県民)

(回答数:38)

【総括】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	口蹄疫の終息後も、引き続き畜産農家ででの日常的な消毒の徹底は継続すべき。	5
	非常事態における対処が必要な場合、国や県による強力な指導が発揮できるような法制度の整備が必要である。(殺処分、埋却地の確保など)	4
	各国の口蹄疫の発生状況を踏まえた、政府の危機意識はなかった。(対応が遅かった。)	2
	いかなる理由があっても、法の例外を認めるべきではない。	2
	行政が10年前の発生の経験を忘れ、危機意識を全く持っていなかった。誰かが責任をとるべき。	1
	感染拡大が進む中、知事はパフォーマンスばかりで実行力がない。	1
	今回を機会に、農家に対して農場での消毒や臭気、害虫対策等の環境対策を含めた対応をお願いしたい。再生の条件として欲しい。	1
	行政・民間含め、しっかりと検証作業を行って欲しい。	1
	防疫は、マニュアルに基づいた対応が基本である。	1
	畜産農家としての知識や、危機対応等含めた資格を付して、プロとしての畜産家を育てるべきである。	1
	適正な補償を事前に決めておき、速やかに農家の協力を得て殺処分が行えるような法整備が必要である。	1
	国から県にもっと権限を委譲するべきではないか。	1
良かったと思う点	多大な犠牲を払ったが、感染を県内で封じ込めることができたことは良かった。	11
	獣医師など、全国から多くの支援・協力を受けて防疫対策を行うことができたこと。	3
	イベントの自粛や消毒などの感染拡大防止のため、県民が一体となって協力したことは良かった。	2
	家畜伝染病予防法やOIEなど口蹄疫にまつわる様々な知識や認識が深まったことは良かった。	2
	この大変な災害の時期にあって、東国原知事ががんばってくれたことが良かった。	2
	畜産業や家畜伝染病のリスクが、一般県民を含めて生活と大きく関わっていることが理解できたことは、良かった。	1

【事前予防段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	行政から農家に対する防疫対策に対する事前の指導(口蹄疫への知識、早期通報、農場の消毒方法など)や啓発を徹底すべきだと思う。	13
	伝染病への対策について、平常時から一般県民や農家への指導を徹底して欲しい。	6
	行政や農業関係機関などの職員にも、口蹄疫発生時の研修や訓練が必要である。	3
	前回の口蹄疫の際の、埋却地の不足や消毒の徹底などの教訓が生かされていないことは反省すべき。	3
	韓国での口蹄疫の発生を踏まえ、早い段階で水際での進入防止策が必要であった。	3
	各農場単位でのウイルスの侵入対策が不徹底であった。	2
	(特に養豚業について、) 予め埋却地の用意しておくべき。	2
	消毒の方法については、正しい薬剤、希釈や散布方法など正確な使用方法等の指導を徹底するべきである。	2
	通常状態から家畜出荷や飼料運搬車両が消毒できる常設ポイントの設置や糞尿の共同処理施設を設けるべき。	1
	国・県の危機管理体制が甘かったことが感染拡大を招いた。	1
	今後の口蹄疫発生時に、すぐに対応に駆けつけられる支援チームの設置を行うべきである。	1

【初動対応段階】

	内 容	意見数
	初動体制が後手後手になり悪かった(殺処分・埋却等の遅れ。)10年前の口蹄疫の教訓が生かされていないかった。	12
	ウイルスの侵入経路や感染拡大のメカニズムなどの解明が必要である。	11
	初動での消毒や道路の封鎖・規制が不十分であった。	11

悪かったと思う点	口蹄疫の発生状況に関する情報は、感染拡大の防止(近づかない)や風評被害の防止などの観点から、早く公表すべき。公共の利益の優先を考えるべき。	6
	国・県・関係団体等との連携が不十分である。	4
	初動段階(ゴールデンウィーク時期)での消毒ポイントは少なすぎた。	3
	初発の感染確認までの時間短縮する方法、"疑わしきは検査する"方法の導入が必要である。	2
	初動での感染経路の調査がお粗末であった。疫学調査は、初期段階で徹底して調べるべき。	2
	首相の交代など、国は口蹄疫の対策を後回しにしていたのではないか。	2
	政府は、口蹄疫の発生と同時に内閣直属の対策本部を設置すべき。	1
	市町村では、有線放送等による情報の提供を行わなかった。	1
	畜産農家に対する消毒薬等の配付等で、生産者同士を一定の場所に集合させるケースがあった。不適切だと思う。	1
	口蹄疫発生時の消毒剤の使用については、必要な場所での使用を確保するために、全国的な浪費よる消毒剤の不足が出ないようにするべき。	1
良かったと思う点	3月に異常牛の存在が疑われている大規模農場の状況について、明らかにするべき。	1
	都城市、えびの市等で早期の対応がなされ封じ込めに成功したのは良かった。	6
	県庁ホームページでの情報提供等、県からの情報発信は、対応が早く良かった。	2
	行政関係の対応は、準備等も早く、よく対応されたと思う。	1

【まん延段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	家畜改良事業団に感染したことは、その原因、進入経路と今後の対策を示すべき。	3
	殺処分・埋却が迅速に行えなかったのが蔓延の原因である。	2
	県有種雄牛の飼育管理体制や、避難が遅れたのは良くない。	2
	ワクチンは、その効果がわからず、無駄だったのではないか。使うべきでなかった。	2
	口蹄疫等の感染の通報遅れに対しては、ペナルティを課すべき。	2
	口蹄疫対策本部が、国・県・町(市)と設置され、指揮命令系統が一元化されていなかった。連携が悪く責任の所在が曖昧だった。	1
	国の指示に従うことも大切だが、県独自の判断で対応するべきだった。	1
	消毒作業を民間が担う理由がわからない。一般車両の消毒徹底したり、24時間の対応、人員確保の面から自衛隊での対応がもっとも良い。	1
	各市・町など自治体によって消毒等の防疫対策への温度差があった。	1
	スーパーなどの商業施設やガソリンスタンドなど、車・人ができ利する施設での消毒は更に徹底するべきだった。	1
	ハエ等の害虫対策も感染拡大防止のため必要だった。	1
	殺処分等の防疫対応に、地元の畜産農家を活用すべきである。	1
	殺処分から埋却までに時間を要する場合のために、ウイルスを拡散させないように家畜の保管方法を検討すべきではないか。	1
	防疫作業の中で、交差汚染を防止するための清浄区域と汚染区域のゾーニングや、立ち入りの制限および汚染区域の出入りにおける消毒・洗浄を徹底するべき。	1
	防疫作業の中で、けが人等があった。	1
	ワクチン接種は10km圏内という根拠が明らかでない。	1
	早期出荷により緩衝地帯を設けるとい策は、そもそも無理であったし、感染の拡大を招いたのではないか。	1
	県の種雄牛などをいくつかの場所で分散して使用するリスク回避を考えるべきであった。	1
	県有種雄牛の避難は、家伝法違反である。貿易相手国との関係では、国益を損なう可能性があるのではないか。	1
良かったと思う点	発生地域から10km以上離れた地域での根拠のないイベント自粛等は不要ではないか。	1
	畜産関係の各団体でのホームページにおける口蹄疫の情報提供はひどかった。有効に活用してもらいたい。	1
	JAや経済連などは人的、金銭的協力や自主的な消毒など、よく対応していた。	1
	非常事態宣言による県民への周知・協力要請は良かった。	1
	県有種雄牛5頭が残せたことは良かった。	1
	ヘリコプター等で消毒を行ったのは、良かった。	1

消毒槽の設置や散水車による消毒液の散布は、良かった。	1
地元新聞等による口蹄疫の情報や、メッセージの掲載等が良かった。	1
マスコミによるメディアを通じた消毒等の防疫措置の呼びかけは効果が良かったと思う。	1

【その他】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	今回の反省を総括し、今後に生かして欲しい。	1
	マスコミには、口蹄疫のドキュメント番組の作成など、国民に広く知ってもらうため、風化させないための情報提供をして欲しい。	1
	募金の金額の公表を行い、必要な人たちに使ってほしい。	1
	宮崎牛、ハマユウポークなど、県産の畜産物の大きなイメージダウンが生じた。	1
	口蹄疫による経済的損失は、国の財政で賄って欲しい。	1
	畜産農家への補償金の非課税化や復興基金の設立など、他県からは厚かましいとの声がある。	1
	口蹄疫発生地区における畜産以外の農産物について、十分な指導がなされなかった。	1
	観光や飲食業への影響が非常に大きかった。農家以外への支援も検討して欲しい。	1
	市・町でのホームページの情報が不十分であった。(更新遅延など)	1
	メディアに対しては、国・県の対応に対する客観的で正しい報道を行って欲しい。	1
	マスコミが防疫のための報道自粛要請に対し、報道規制されているとしているのは疑問である。ホームページおよびそれ以外でのわかりやすい情報提供が必要である。	1
	地元選出の国会議員にがんばって欲しかった。	1
	口蹄疫が発生している時期に、知事が県外で講演等していたことは不適當であった。	1
良かったと思う点	報道により取り上げられ、全国から義援金や励ましなど様々な支援をいただいたことは良かった。	9
	農家や関係者に対する「心と体のケア」の相談窓口は良かった。	2
	口蹄疫の発生で、地域内の団結が強まった。	1
	復興に向けて、官民一体となって取り組んでいること。	1
	畜産農家自らがブログ等で情報発信していたことは、幅広い層に情報が伝わり、理解が得られ、支援を受けることができた。	1

口蹄疫対策アンケート結果整理表(県職員)

(回答数:98)

【総括】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	移動制限区域における法律違反者や、車両の消毒拒否など具体的な対応が明確になっていないものを含め、現状に合わない法令や、現実的な対応のためのマニュアルを整備すべき。	7
	10年前の成功例のために、県内部でも口蹄疫に対する危機意識が希薄だったと思う。	5
	県職員自身の口蹄疫に対する知識・関心が低かった。	3
	口蹄疫を否定できない症例を必ず確認の検査を行うよう義務づける、また、これを阻んだ場合のペナルティを設定するなど、早期発見の対策が必要である。	2
	口蹄疫について、畜産農家、一般県民が軽視していたのが感染拡大した原因ではないかと思う。	1
	県有種雄牛は、危機管理のための分散飼育が必要である。	1
	良かったと思う点	県・市町・JA等の関係団体など、一体的に協力して防疫対応を行い、感染を県内で押さえることができたことは、良かった。
県庁内での全庁的な協力体制(現場作業への動員等)がとられ、多くの職員が協力して対応できたことが良かった。		24
自衛隊や警察が機動的に支援に対応したことは良かった。		5
他の都府県からの支援の獣医師など、防疫作業で積極的に協力してもらった。		4
海外からの悪性伝染病を経験したことは、日本の畜産にとっても資すること。この経験を冷静に検証し、今後の対策に生かす必要がある。		1
民間種雄牛の処分の際など、知事が自ら行動を起こして交渉等に当たったことは良かった。		1

【事前予防段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	畜産農家に対し、家畜衛生に関する正しい知識を指導する必要がある。(適切な消毒や糞尿の取り扱い行動規制など)	8
	県の畜産関係職員や獣医師等を含めた防疫対策に関する事前の研修・実務的な訓練が必要である。	6
	隣国での発生状況を踏まえて、農家の指導など本県が十分に防疫対策を講じていなかったと思われる。	5
	農家が口蹄疫の症状がわかるような資料の配付により、早期発見・通報の指導などが必要である。	3
	防疫作業(殺処分・埋却等)に従事する職員については、一定人数の協力者を予め選定し、研修等を行っておくべきではないか。	2
	農家において、消毒薬等の十分な備蓄が必要である。	2
	防疫作業において、建設業関係者との連携は不可欠である。建設業協会からの協力を求めるために事前の契約等の検討が必要だと思う。	1
	大規模農場においては、埋却地の確保など緊急な状況を想定した、事前の対応の構築が必要である。	1
	感染症に対するリスクを考慮した畜産施策(種畜の育成等)を検討するべきである。	1
	海外からの農場見学や研修生の受け入れについて、把握する方法を検討する必要がある。	1
	家畜の補償や埋却に関する方法等、事前の調整や制度がなかったため、殺処分等に時間を要した。	1
良かったと思う点	防疫作業のサポート準備として、平成19年度以降、防疫従事者の宿泊、食事の手配のための調査等を行っていたためスムーズな対応ができた。	1

【初動対応段階】

	内 容	意見数
	殺処分・埋却等の防疫作業において、事前の準備・調整不足による待ち時間や作業人員の不足や余剰等があり、非効率だった。	19
	初期段階では、消毒ポイントでの消毒で不十分な点があった。(一般車両、消毒の方法等)が必要であると思う。	15
	殺処分・埋却等の防疫作業の現場において、清浄区域・汚染区域の分離や、現場の作業員や資機材のバイオセキュリティ(防護服の扱い、作業後の行動規制など)で不十分な点があった。	13
	防疫作業に従事する職員に対する、防疫に関する十分な情報・レクチャーが必要だと思う。	13

	県の総合的な危機管理体制が不十分である。(体制、指揮命令系統の明確化、役割分担等)	12
	県の現地対策本部は家畜保健衛生所を中心とした体制では、限界がある。県の各部署や市町との連携など十分機能していたか疑問である。(農林振興局に設置すべきだったと思う。)	9
	初動での防疫対策で、現場での指揮命令系統が不明確だった。	9
	発生場所が明らかにされないと、農家の不安をあと、防疫作業上も支障が出る。発生農家の位置情報はなるべく早く公表するべき。	7
	県庁内部で、防疫対策に対する様々な改善意見等があったが共有されない、反映されないなど組織的に生かされなかった。	6
	発生農場の周辺道路での一般車両の消毒や通行規制が不十分な部分があった。	6
	条件が悪い中で車両消毒におけるドライバーへの聞き取り事項が多く、消毒作業の負担となった。負担軽減が必要だと思う。	6
	初動での人員、物資の投入が逐次的に投入され、対応が後手後手になった。危機感が薄かった。	5
	消毒薬による火傷の症状や事故の発生など、作業上の安全確保に問題があった。今後は改善を検討する必要がある。	5
	県の対策本部(畜産課)と現地対策本部の連携が不十分だった。(消毒ポイントの設置場所など、対応方針の変更や予算の協議等に十分に対応できなかった。)	4
	県の対策本部、市・町の対策本部、現地対策本部の連携、指示体制で混乱が生じた。	4
悪かったと思う点	現場作業に従事する職員等も含めて、県庁全体で発生状況等の情報を共有化することが必要だと思う。	4
	市町村間で消毒方法など防疫作業への温度差があった。マニュアルによる均一化が必要である。	4
	初動での殺処分・埋却が遅れたことが感染拡大の原因である。	3
	発生初期の政府の対応は遅かった。	3
	消毒ポイントの設置の際に、必要な資材であるテントや動力噴霧器などの供給に時間がかかり、指示が降りるのも遅かった。	3
	飼料運搬の車両の中に消毒を拒否していた車両があった。	3
	発生当初に、県が全庁的な体制をとらず、農政水産部内で対応使用としたことは、良くなかった。	3
	ネズミやハエなど、感染拡大の原因となる可能性がある生物の接触を制限する対策が遅れていたと思う。	3
	口蹄疫の感染原因、感染ルートについて明らかにするべき。	2
	防疫作業に必要な物資が不足した場面があった。	2
	初動の段階では、一般県民からの認識がなく、消毒作業等への全面的な協力が得られなかった。	2
	初動の段階で、マニュアルに頼った結果、感染が拡大した。これらを超えて早期の交通規制やワクチン接種など機動的な判断が必要だった。	2
	防疫作業における市町村間の調整(特に埋却地の確保、給水車用の水確保など)について、連携がうまくいかなかった。	1
	畜産の密集地帯については、直接発生がなくても通行遮断する必要があると思われる。	1
	埋却地の確保ができていなかったことが、感染拡大の原因だと考える。	1
	県に口蹄疫感染を確認できる施設を設置すれば、低いハードルで検査が行えると思う。	1
	マスコミからの取材への対応の面で、専門的な立場からの説明などが十分に対応できなかった。	1
	初動時期にマスコミが消毒等行わずに農場に取材にまわっていたことは、消毒の徹底という部分で不適切だった。	1
	県外等に移動制限区域の正確な情報が伝わっていないことによる支障が生じた。(家畜輸送のトラックの立ち往生や、搬送途中での殺処分など)	1
	これまでの経験を生かし、感染確認直後から殺処分・埋却ほか防疫対策に対応できたことは良かった。	7
	都城市、えびの市等感染が飛び火した地域では、迅速な防疫対応がなされ封じ込めができた。	3
	町の役場内に県の現地対策本部を設置したことは、町との連携の面からは有効だった。	2
	県の現地対策本部の本部長は、一定期間固定して配置されたので、経験が蓄積されたことが良かった。	1
良かったと思う点	現場作業において、休憩時間の確保や水分補給など、リーダーの指示が良かったため、作業が継続できた。	1
	県のホームページでの最新の情報が提供できたことは良かった。	1
	対外的な情報提供としては、定例的な様式を用いて随時迅速な情報が出せた。	1

発生直後に、発生農家の個人情報を開示しなかったことは、適切だったと考える。(発生農家の子供などに対する、差別やいじめなどの影響が一定程度回避された。)	1
---	---

【まん延段階】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	今回のように、作業が長期に及ぶ場合は、職員の体力的・精神的な限界も想定し、人的配置の計画、機械化や外部委託による負担軽減など一定の配慮、計画をもって対応するべきである。	10
	安全確保に関する説明や、夏季の作業での猛暑対策や定期的な休息、装備の適正な使用がなされないなど、作業上の安全管理が不十分だった。	5
	現場での作業用に準備された資材等は、過剰に準備されていたと思う。効果的・効率的な使用が必要である。	5
	県内のイベントすべてを自粛することは、再度検討が必要である。(他産業への影響が大きい。)	4
	消毒ポイントに従事する県職員で、十分な危機意識を持たずに作業にあたっていた者がいた。	3
	殺処分等の現場のチーム内でのリーダーのリーダーシップが不足し、作業が非効率になったケースがあった。リーダーがわかりづらかった。	3
	対策本部や現地本部等に一定期間職員を配置する場合の人選は、地域に関する精通度や業務内容など適性を考慮する必要がある。	3
	殺処分・埋却等の防疫作業において、対応するチーム編成は、スムーズな連携がとれるよう構成・調整するべきである。(複雑な混成チームでは連携がとりにくい。)	2
	県庁内部において、限られた担当以外に口蹄疫発生に関する情報が伝達されないため、それ以降の防疫対策への対応が遅れた。	2
	非常事態宣言は、もっと早い時期に発出すべきであった。	1
	委託により派遣された消毒ポイントの従事者等において、従事する態度などに危機感がない職員がいた。	1
	県内部で口蹄疫対策本部の業務に従事した職員は、短期間で交代していたので非効率だった。	1
	不要と思われる箇所、防護服を使用するなどの無駄が多かった。	1
	消毒ポイントの設置が、出入口の関係等で不適當な場所に設置されていた。	1
	埋却地として河川近くを掘削する場合の河川管理者との協議等、事前の手続きが行われなかった場合もあった。	1
	感染していない家畜を有無を問わず殺処分することに違和感を感じた。	1
	現場作業内容に対し、ゴーグルやマスク等の機能が不十分だった。	1
	堆肥処理が残され、対応策が早期に示されなかったため、処分に時間を要した。	1
	マスクのヘリによる取材は、風によるウイルス拡散の可能性があると思われる。	1
	未発生の市町村でも、口蹄疫への対応について支援が必要だったが、ほとんどケアされていないかった。	1
良かったと思う点	現場作業従事者の着替えや食事などの資材等は豊富に準備されており、良かった。	8
	非常事態宣言は、県民に対して緊急性を周知する効果があり良かった。	4
	県庁内での防疫作業に対するけが等防止のための情報共有の方法として、庁内の掲示板の活用は有効だった。	3
	現場レベルの防疫作業においては、各所で状況の変化に応じた機動的な対応がとられた。(資材のリサイクル化、状況把握の改善等)	2
	消毒ポイントの運営を農林振興局により組織的な運営ができ、消毒方法もマニュアル化し統一した対応ができた。(北諸地区)	2
	発生農場の方が防疫作業に協力してもらえたことが、非常に有効だった。	2
	ワクチンの使用は適切な判断であった。	1
	一般のドライバーの消毒に対する協力姿勢があり良かった。	1

【その他】

	内 容	意見数
悪かったと思う点	庁内の職員の動員について、部局間のバランスが悪かった。	5
	全庁的に口蹄疫の対応を優先したため、県庁内の業務に多大な影響が生じた。全庁的な業務縮小などの対応が必要であったと思う。	3
	非常事態宣言の解除後に、職員の危機意識が薄れている。	2
	疑似患者発生農家とワクチン接種農家の経済的支援に差がある。区分する必要があるのか疑問である。	1

	口蹄疫の支援としての資金貸し付けよりも、補助金、助成金での支援を検討すべきである。	1
	畜産に特化すると、リスクが高い。野菜生産などとの複合経営を推進すべき。	1
良かったと思う点	全国から応援のメッセージや義援金など、様々な支援があり、非常にありがたかった。	7
	防疫対策や、復興に向けて、県民に一体感が共有できた。	4
	畜産県としての宮崎の認知度が高まった。	3
	被災農家等に対する「心と体のケア」に対して支援は良かった。	1
	畜産業の実態について、体験ができたことが良かった。	1
	法令等だけでは県民生活を守れないことが再認識できた。	1

県民生活の再建（※）